【矢祭町立矢祭小学校】

Ⅰ　はじめに

矢祭小学校では、令和５年度「居心地のよい学級づくりを通して、生き生きと学び、共に高めあう児童の育成～児童に寄り添う教師と互いのよさを認め合い、高め合う集団を目指して～」を研究主題に研究を行ってきた。教師が児童に寄り添い、工夫して授業を展開してきたことで、安心して学習に取り組める児童が増えてきた。結果として、令和５年度の標準学力調査では、各学年とも前年度の結果より向上が見られ、学力の定着にもつながった。その一方で、児童が友達の考えのよさを認め合ったり、高め合ったりすることができるような教師のコーディネート力や発問の吟味、板書の構成などが課題となった。令和６年度、矢祭町が人権教育の指定を受けたことで研究主題の見直しを行い、児童自らが自分のよさに気づき、他者を認め、多様性を受容する教育活動を推進していけば、すべての人の Well-being を成し遂げるための人権意識が高まっていくであろうという研究仮説のもと、研究主題を「自他を愛し、共に幸福を求めること（Well-being）ができる子どもの育成～認め合い、伝え合い、学び合う活動を通して～」とした。

Ⅱ　研究の内容

1　研究計画

（1）　研究主題　「自他を愛し、共に幸福を求めること（Well-being）ができる子どもの育成」
～認め合い、伝え合い、学び合う活動を通して～

（2）　主題設定の理由

①　今日的な教育課題から

令和４年度から１２年度までの本県教育の基本方針となる第７次福島県総合教育計画では、「個人と社会の Well-being（一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ）の実現」を目指すべき姿とし、全ての子どもに必要な力を育成するため、一方通行・画一的な授業等から、「個別最適化された学び」、「協働的な学び」、「探究的な学び」へと学び方の変革を推進することが示されている。

さらに、それらを受け矢祭町総合教育大綱では、「自他を愛し、共に幸福を求めること（Well-being）ができる人」【優しい人】、「自ら学び考え表現し、自己実現ができる人」【進んで学ぶ人】を目指す人間像として掲げている。

そうした姿を実現させるためには、学級をはじめとする集団でのかかわり合いの中で、自他の価値を尊重する意欲や態度、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能などの資質や能力を育成することが重要であると考える。

②　学校教育目標とのかかわりから

本校では、新しい時代をたくましく生きる児童の育成に向け、「やさしく　まじめに　つよく　りそうをもって」を教育目標に、目指す児童像として次の４点を掲げている。

○　自分もほかの人も大切にする子ども　＜心力＞
○　ゆめにむかって、学び続ける子ども　＜学力＞
○　強い意志と体をもつ、たくましい子ども　＜健康・体力＞
○　ふるさと、日本、世界をみつめる子ども　＜郷土を愛する心＞

これらの実現に向けて、＜心力＞＝徳、＜学力＞＝知、＜健康・体力＞＝体、＜郷土を愛する心＞＝情をバランスよく身につけ、新しい時代をたくましく生き抜くことができる

ように、居心地のよい学級を基盤にしながら、児童がお互いのよさを認め合い、友達と協力し合って課題を解決する協働的な学びが大切になってくる。児童一人一人が主体的に学習し、教師や友達と対話しながら「わかった、できた」という実感を伴い、生き生きと学ぶことができるように、自他を認め合う居心地のよい学級づくりと質の高い授業づくりを行っていくことが不可欠となる。

③　児童の課題から

矢祭小学校は、平成２８年度より町内の５つの小規模校が統合し、矢祭町の未来を担う子どもたちをはぐくむ学校として、その教育活動にあたってきた。素直で何事にもまじめに取り組み、与えられた役割に対して責任をもって取り組んだり、教師の指示や学校の規則を尊重しようとしたりする児童も多い。

しかし、児童の中には、日常生活の中でも、自分の思いを友達に伝えられず、良好なリレーションを築くことができなかったり、トラブルに発展してしまったりすることもある。このことからも、対人関係を築く力や社会性の低下といった今日的な教育課題が、本校の児童において少なからず当てはまることがわかる。

令和５年度に行ったＱＵテスト（１１月）の結果を見ると、約８０%の学級が「親和的なまとまりのある学級」と満足群が全国平均よりも高い割合になっている。一方で、児童の学習基礎能力の値に比べ、学習意欲の低さが気になる児童や、自分の思いや考えを他者に伝えることに苦手意識をもつ児童も少なくない。

これらを踏まえ、「学級づくり」と「授業づくり」の両面において、児童が主体的に学習に取り組み、教師や友達との対話を通して学習活動を進めていくことが重要となる。そうした対話を実現するために、教科指導と合わせて教育活動全体を通して、一人一人が互いに認め合い、尊重し合う基盤となる人権意識を高めていくことが不可欠であると考える。以上のことから、本研究主題を設定した。

（３）　研究主題の基本的な考え方

①　「自他を愛し、共に幸福を求めること」とは

学級は、自己および多様な他者と様々な問題に対して語り合い、差異を生かし、新たな知恵や解決策などを共に創り、その過程で創造的な関係を構築していく集団である。その学びは教科学習を中心に教育活動全体を通して行われる。その中で、児童が自己有用感を高め、自尊感情を高めることで、自分の考えを大切にするように、相手の考えや思いを大切にする態度を身につけ、仲間とともに問題解決をしたことに達成感と喜びを感じとることで、さらに、力を合わせて問題を解決しながらよりよく生活していこうとする実践的な態度を形成させていくことができる。そうした一連の活動や経験こそが、「自他を愛し、共に幸福を求めること」につながると考える。

②　「互いに認め合い、伝え合い、学び合う」とは

授業においては、主体的に問いと向き合うことで、自己との対話が生まれる。その思いを互いに認め合える仲間に伝え合うことによって、他者の考えにふれ、自らに問い直し、自身の考えを修正・強化することによって学びを深めることができる。学習の課題のみに限らず、生活上の課題に対しても互いに知恵を出し合い、解決に導くことができたとき、児童は「互いに認め合い、伝え合い、学び合う」ことができたといえるであろう。

（4）　研究仮説

児童自らが自分のよさに気づき、他者を認め、多様性を受容する教育活動を推進していけば、すべての人の Well-being を成し遂げるための人権意識が高まっていくであろう。

（5）　研究内容

① 学級づくりに関する研究

ア　ＱＵテストの実施、分析・考察

イ　効果的なスマイルタイムの実施(ルールの徹底とリレーションづくりの工夫)

ウ　朝の会・帰りの会の運営の工夫

エ　学年集会の計画と運営の工夫

オ　学級の時間の計画と運営の工夫

カ　発言に対して、何でも受容する学級の雰囲気づくり

② 人権意識を育む学習活動を取り入れた授業づくり（授業における手立て）

【手立て１】　自己存在感をもたせるための個別最適化された学びの工夫

ア　学習意欲を高める課題設定の工夫

イ　児童生徒の発言する機会を意図的に設定

ウ　自分の考えをもつための手立ての工夫と自力解決の時間の確保

エ　思いや考えを共有し、自他のよさを広げ深めるコーディネート

オ　ペアやグループ、一斉などによる話合い活動の充実

カ　児童の思考の助けとなる構造的な板書の工夫

【手立て２】　認め合い、伝え合い、学び合う活動の工夫

ア　自分の考えをしっかり発表する場面の確保

イ　他の意見との違いに気づき、自分の意見を修正できる力の育成

【手立て３】　道徳教育の工夫

ア　人権に関わる価値項目を年間指導計画へ明記

イ　議論を中心にした展開を設定(自分の意見を伝え、周りの意見に耳を傾け、場合によっては自分の考えを見直す。)

ウ　中心発問と補助発問のバランスを考慮

エ　終末の工夫(決意表明はしない、自分の考えや感想を書く、など)

【手立て４】　ＩＣＴの活用による一人一人の見取り、情報モラル教育の工夫

ア　導入・展開・終末での活用の工夫

イ　情報モラル教育、リスク教育の融合

③ 授業を支える日常の取り組み

ア　互見授業の日常化

イ　掲示物の充実

ウ　児童の様子の見取りの継続

④ 変容調査

ア　児童の実態把握(ＱＵテストの活用)

イ　児童の学習状況を的確に把握するために、ノートやワークシートへのコメント

ウ　人権感覚チェックリストアンケートの継続的な実施

（6）　各部会での取り組み

【授業研究部】

◎ 指導案の形式 ⇒ 一人１実践を踏まえた内容の検討

○ 板書・ノートの指導

○ 互見授業の進め方の検討

◎ 授業研究会の形態・運営 ⇒ 事前研・事後研の司会、記録

【周辺環境部】

◎ スマイルの木の設営 ⇒ 月ごとに学年のコーナーを紹介

◎ 授業研究会の記録 ⇒ 授業研究の記録(VTR・写真など)についての分担

○ 研究図書の購入と保管

◎ 各種調査の実施・分析 ⇒ ＱＵテストの結果の考察と今後の具体策についての検討

○ 家庭との連携の在り方

（7）　授業研究の在り方

①　授業研究において大切にしたいこと

○ 研究主題の共有と目指す児童像の明確化

○ 学び合いを活かした学習過程の検討

○ 職員全員が学び合える研修の充実(事前研や事後研)

②　授業研究の進め方について

○ 全体授業の実施：全て全体の研究授業とする。事前研は、各ブロック・学年等で行う。事後研は全体で実施する。

○ 授業は、全て教科担任制を生かして実施する。

○ 指導案は２週間前までに提出し、授業の実施を周知する。

（8）　互見授業の位置づけのねらいや方法

○　授業の考え方や工夫について共有したり、授業の悩みを相談し合ったりすることで、自身の手立てに基づいた課題を明確にすることができる。

○　事後研などは実施せずに、先生方から付箋紙などでコメントをもらい（授業者の働きかけや、そのときの児童の姿はどうであったか等)、自分自身の課題を明確にしていく。

Ⅲ　研究計画・実践内容
【令和６年度】
（１）年間計画

月日（曜日）	内　容	課題研究	備考
４月５日（金）	第１回現職教育全体会		
４月１２日（金）	第２回現職教育全体会	○本研究の方向性の確認 ○本研究の理論編の共有	
４月２６日（金）	第３回現職教育全体会	○各部の実践計画の確認	
５月１０日（金）	第４回現職教育全体会	○第１回授業研究	５年１組（算）
５月３１日（金）	第５回現職教育全体会	○第２回授業研究	６年１組（社）
６月　６日（金）	QUテスト①実施		
６月２１日（金）	第６回現職教育全体会	○第３回授業研究	６年１組（外）
６月２８日（金）	第７回現職教育全体会	○第４回授業研究	５年２組（算）
７月１１日（木）	町学力向上授業研究会①	中学校授業研究会	
７月１２日（金）	第８回現職教育全体会	○第５回授業研究	２年１組（道）
７月 下旬	ＱＵテスト①について	○結果の分析と考察	
８月２３日（金）	第９回現職教育全体会	○第６回授業研究	４年１組（図）
８月３０日（金）	第１０回現職教育全体会	○第７回授業研究	５年１組（学）
８月３０日（金）	ＱＵ研修会		
９月　６日（金）	第１１回現職教育全体会	○第８回授業研究	あおぞら（自）
９月１３日（金）	第１２回現職教育全体会	○第９回授業研究	１年１組（算）
１０月　４日（金）	第１３回現職教育全体会	○第１０回授業研究	３年１組（国）
１０月１８日（金）	第１４回現職教育全体会	○第１１回授業研究	３年２組（社）
１１月　１日（金）	第１５回現職教育全体会	○第１２回授業研究	そよかぜ（国）
１１月１８日（月）	町学力向上授業研究会②	小学校授業研究会 ○第１３回授業研究 ○第１４回授業研究 ○第１５回授業研究	２年２組（道） ４年２組（社） ６年１組（学）
１１月２２日（金）	第１６回現職教育全体会	○第１６回授業研究	１年１組（体）
１１月２６日（火）	ＱＵテスト②実施		
１１月２９日（金）	第１７回現職教育全体会	○第１７回授業研究	３年１組（道）
１月２４日（金）	第１８回現職教育全体会	◎研究物資料作成	
２月１４日（金）	第１９回現職教育全体会	○次年度の研究について	

（２）授業実践

【手立て】（１）自己存在感をもたせるための個別最適化された学びの工夫

エ　思いや考えを共有し、自他の良さを広げ深めるコーディネート

外国語科では、６年生の「My Weekend」の学習で、互いに相手意識をもたせるために、児童に会話をするときに何が大切かを考えさせてから活動を行った。聞き手は頷いたりアイコンタクトを取ったり、話し手はゆっくりはっきり話す姿が見られた。慣れない言語でも、相手意識をもって活動すると自然と安心感が生まれ、積極的なコミュニケーションへとつながっていた。安心感をもつ

Ｔ：会話をするのときに、聞く人はどんなところに気をつければよいでしょう？
Ｃ：うなずきながら聞く。
Ｃ：はっきり、大きくうなずく。
Ｃ：相手の目を見て聞く。
Ｃ：にこにこして聞く。
Ｔ：答える人は、どんなところに
　　気をけたらよいでしょう？
Ｃ：目を見て話す。
Ｃ：笑顔で答える。
Ｃ：言葉を区切って話したほうがいい。
Ｔ：相手のことを考えられているね。
　　みんなが自然にやっていることなんだ
　　けど、アイコンタクトするのもいいね。

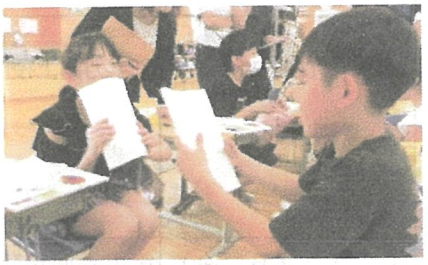
ことにつながるこれらの手立ては、人権意識を高める上で有効であった。

【手立て】（２）認め合い、伝え合い、学び合う活動の工夫

ア　自分の考えをしっかり発表できる場面の確保

国語科では、３年生が自分で見つけた秋らしい言葉をノートに書き、ペアで発表し合う活動を取り入れ、その後全体に向けて伝える活動を行った。ペア学習を取り入れることで、自分の考えを伝える場面が確保され、子どもたちは安心感をもちながら、そして活発に考えを伝え合うことができた。直前まで挙手をためらう児童もいたが、ペア学習後はより積極的な挙手が増え、意欲的に学習に関わることができた。ペア学習で友達の考えを聞いたり受け入れてもらったりすることが、安心や自信につながったと考えられる。笑顔で相手の話を聞こうとする姿も多く、安心して伝え合える学級の雰囲気の高まりが感じられる場面であった。

Ｔ：秋らしいものにはどんな物があるかな？
Ｃ：なし。
Ｃ：りんご。
Ｔ：果物だけ？
Ｃ：野菜もある。
Ｔ：まだまだあるよね。それぞれノートに書きましょう。
Ｃ：＜一人調べ＞
Ｔ：書いたことを友達に紹介してみましょう。
Ｃ：＜ペア学習＞
Ｔ：今、話したことを、みんなに教えてもらえるかな。
Ｃ：どんぐり。
Ｃ：ハロウィンも秋だと思います。
Ｃ：柿の木
Ｃ：秋祭りもあると思います。
Ｃ：くりごはんも秋だと思う。



【手立て】（３）道徳教育の工夫
エ　終末の工夫

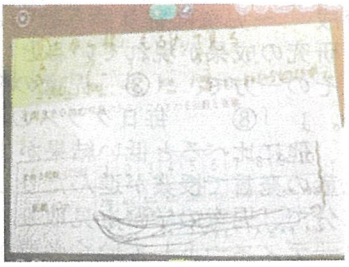
道徳科では、２年生の「ともだちをおもうこころ」の学習で、終末の場面で、今日の授業を通して学んだことを、サークル状に座って発表し合う場面が設定されていた。全員の顔を向かい合わせ、相手の顔を見ながら考えを話したり聞いたりすることができた。相手意識をもちながら、穏やかな雰囲気で進められ、「〇〇さんと同じで　～　」と、友達の意見につながりをもたせる発表もあった。安心感や発表意欲につながる手立てだったと考える。また、全員が発表する機会が与えられていたことも、児童の人権に配慮された手立てだったともいえる。

Ｔ：今日の学習を振り返って、考えたことをみんなで話しましょう。
Ｃ：自分も荷物より友達を優先したいと思った。
Ｃ：登場人物のように友達を助けたい。
Ｃ：友達以外の先生や家族も大切だと思います。
Ｃ：友達の命が大切だと思いました。
Ｔ：今日、みなさんが考えたことを大切にしていけるといいですね。

【手立て】（４）ＩＣＴの活用による一人一人の見取り
ア　導入・展開・終末での活用の工夫

算数科では、５年生の「比例」の学習で、各自の表の見方を共有するため、ロイロノートを活用した。自力解決でまとめた各自の気づきや考えをロイロノートを使って集約し、それを電子黒板や一人一人の端末に映して全体で共有した。各自のノートに書きこまれた矢印や数字に注目させ、その意味について学級全体で話し合い、表の見方や数の変化の捉え方を深めることができた。話し合いのコーディネートや板書にも生かすことで、児童の理解を深めることができた。

Ｔ：Ｅくんはこんなことも書いています。
Ｃ：　同じ数ずつ増えていく。
Ｃ：「２００×□＝〇」の式になっている。
Ｃ：１週の長さの２００ｍがかけられる数で、表の上の走る回数がかける数になっている。
Ｃ：２００×１＝２００、２００×２＝４００
Ｔ：どこのこと？
Ｃ：縦で見るとそうなっている。
Ｔ：縦の見方をしたときにかけ算の関係になっているっていうこと？
Ｃ：そして、横で見ると同じ数ずつ増えているってこと。



（３）意識調査

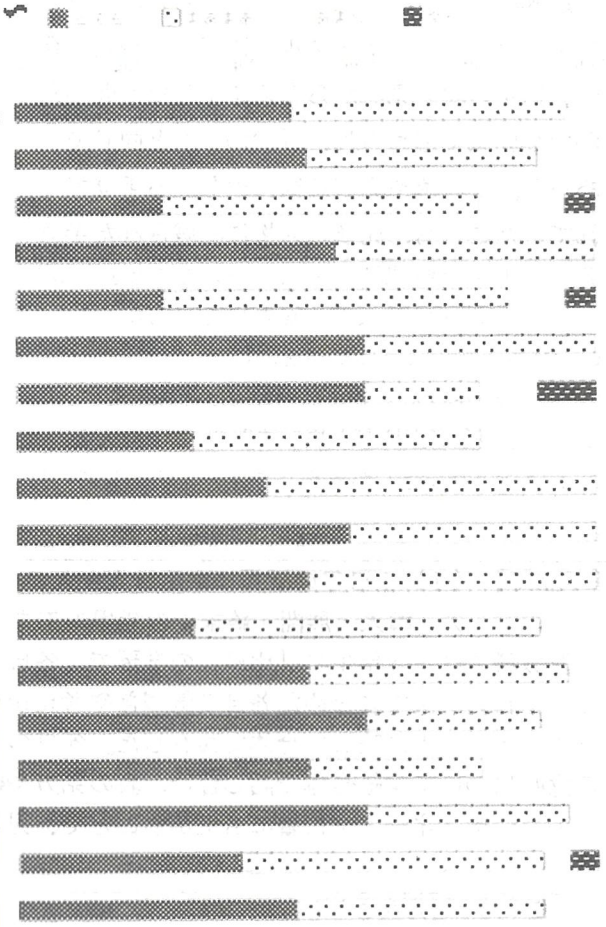
＜教員用・人権感覚チェックリスト結果＞

【人権感覚チェックリスト】　令和6年7月実施

矢祭町立矢祭小学校　＊各項目について４段階評価

（ A：とても当てはまる　B：やや当てはまる　C：あまり当てはまらない　D：全く当てはまらない ）

評価項目		A	B	C	D	平均値
1	子どもへの関わり方	人数				3.3
①	一人一人の意見を大切にできているか。	10	10	1	0	3.4
②	授業の開始時刻と終わりの時刻を守っているか。	10	8	2	0	3.4
③	児童の発言に偏りはないか。	5	11	3	1	3.0
④	あたたかい雰囲気で授業を進めているか。	11	9	0	0	3.6
⑤	子どもの意見を板書に残すことができたか。	5	12	2	1	3.1
⑥	一人一人に寄り添い、公平な指導ができているか。	12	8	0	0	3.6
⑦	名前に敬称をつけて呼んでいるか。	12	4	2	2	3.3
⑧	毎日クラスの子全員に声をかけているか。	6	10	4	0	3.1
⑨	自己有用感を高めるよう、肯定的な言葉かけをしているか。	9	12	0	0	3.4
2	環境面	人数				3.4
①	誤字脱字等がないよう配慮のある掲示をしているか。	12	9	0	0	3.6
②	視力や体格等を考慮した座席になってるか。	10	10	0	0	3.5
③	掲示物は必要以上にないか。	6	12	2	0	3.2
④	教室や廊下等に、落書きはないか。	10	9	1	0	3.5
⑤	教室やワークスペース、廊下・階段等は清潔に保たれているか。	12	6	2	0	3.5
⑥	机や椅子、ロッカー等は整理整頓されているか。	10	6	4	0	3.3
⑦	黒板は不要な板書や掲示がなく、きれいな状態になっているか。	12	7	1	0	3.6
⑧	笑顔で仕事ができているか。	8	11	1	1	3.2
⑨	職員間で良好なコミュニケーションを図れているか。	10	9	2	0	3.4



＜考察＞

「１　子どもとの関わりの項目」では、「④　あたたかい雰囲気で授業を進めているか。」「⑥　一人一人に寄り添い、公平な指導ができているか。」「⑨　自己有用感を高めるよう、肯定的な言葉かけをしているか。」の３項目で肯定的評価100％という結果を得ることができた。以前より行ってきた矢祭小学校の研究主題「居心地のよい学級づくりを通して、生き生きと学び、共に高めあう児童の育成　～児童に寄り添う教師と互いのよさを認め合い、高め合う集団を目指して～」で取り組んできた研究の成果が現れているといえる。

その一方で、「③　児童の発言に偏りはないか。」「⑤　子どもの意見を板書に残すことができたか。」「⑧　　毎日クラスの子全員に声をかけているか。」の項目では、平均値が３程度となっており、他に比べると低い結果が出ている。日常の授業の中で、発言する児童に偏りがあったり、一部の児童の発言で授業が進んだりしていると考えられる。これは教師のコーディネート力に関わってくる部分で、児童の学習を見取り、ペア活動を取り入れたり、意図的指名を適切に取り入れたりして、コーディネートしていく必要がある。また児童の意見を板書に残せていないのは、児童の言葉や思いを大切にした授業が展開できていないという要因も考えられる。児童の発言に耳を傾け、その思いに寄り添った児童主体の授業づくりに努めることが求められる。

「２　環境面の項目」では、「①　誤字脱字等がないよう配慮のある掲示をしているか。」「②　視力や体格等を考慮した座席になっているか。」の２項目で肯定的評価100％を達成した。「⑤　教室やワークスペース、廊下・階段等は清潔に保たれているか。」「⑦　黒板は不要な板書や掲示がなく、きれいな状態になっているか。」の２項目でも平均値は3.5以上で、児童が学習や活動に集中しやすい環境づくりがなされていることが分かる。

＜児童用・人権感覚質問紙の結果＞

「知識的側面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」の３項目を、「１　人間の尊厳・価値の尊重」「２　生命尊重」「３　自己尊重の感情」「４　共感と連帯感」「５　公平・校正」「６　多様性への尊重・共生」「７　コミュニケーション能力」「８　権利と責任」「９　参加・参画」の９つに分類し、計27項目でアンケートを行った。

人権感覚質問紙調査（小学校１～3年児童）　令和６年７月実施　　3.5以下

No,	内　容	設　問　内　容	1年	2年	3年	平均
A1	人間の尊厳・価値の尊重	にんげんは、ひとりひとりみんなたいせつです。	3.8	3.9	3.8	3.9
A2	生命尊重	いのちのあるものは、すべてたいせつです。	3.8	3.9	3.9	3.9
A3	自己尊重の感情	わたしは、たいせつにされています。	3.5	3.6	3.7	3.6
A4	共感と連帯感	ともだちに、じぶんのきもちをつたえることはたいせつです。	3.5	3.7	3.6	3.6
A5	公平・公正	ひとによってたいどをかえるともだちがいます。	2.5	2.1	2.5	2.4
A6	多様性への尊重・共生	まわりには、いろいろなかんがえをもつひとがいます。	3.2	3.6	3.7	3.5
A7	コミュニケーション能力	じぶんのきもちをともだちにつたえることはたいせつです。	3.6	3.6	3.7	3.7
A8	権利と責任	かかりのしごとを、さいごまでやりとおすことはたいせつです。	3.7	3.9	3.9	3.8
A9	参加・参画	よいがっきゅうをつくるためには、ともだちときょうりょくすることがたいせつです。	3.7	3.8	3.8	3.8
B1	人間の尊厳・価値の尊重	じぶんやともだちを、いつもたいせつにしようとしています。	3.8	3.9	3.8	3.8
B2	生命尊重	どんなときでも、じぶんのいのちをたいせつにしようとしています。	3.8	3.9	3.9	3.8
B3	自己尊重の感情	じぶんのよいところに、きづいています。	2.9	3.7	3.1	3.3
B4	共感と連帯感	ともだちのはなしをしっかりきこうとしています。	3.6	3.8	3.7	3.7
B5	公平・公正	ただしいことをまもろうとしています。	3.7	3.7	3.8	3.7
B6	多様性への尊重・共生	じぶんとちがうかんがえを、たいせつにしようとしています。	3.7	3.7	3.7	3.7
B7	コミュニケーション能力	じぶんのきもちを、ともだちにわかるようにつたえようとしています。	3.4	3.6	3.7	3.6
B8	権利と責任	かかりのしごとを、さいごまでやりとおそうとしています。	3.7	3.9	3.8	3.8
B9	参加・参画	このがっきゅうを、よいがっきゅうにしようとしています。	3.7	3.8	3.8	3.8
C1	人間の尊厳・価値の尊重	ともだちのきもちをかんがえることができます。	3.6	3.7	3.6	3.6
C2	生命尊重	ひとやどうぶつなど、すべてのいのちをたいせつにすることができます。	3.6	3.9	3.8	3.8
C3	自己尊重の感情	かぞくにたいせつにされているときづいています。	3.6	3.4	3.7	3.6
C4	共感と連帯感	ともだちと、なかよくせいかつすることができます。	3.4	3.7	3.7	3.6
C5	公平・公正	だれとでもおなじように、あそんだり、べんきょうしたりできます。	3.2	3.6	3.6	3.5
C6	多様性への尊重・共生	ひとりひとりに、ちがいがあることをりかいしています。	3.5	3.7	3.6	3.6
C7	コミュニケーション能力	じぶんのかんがえを、わかりやすくともだちにつたえることができます。	3.1	3.5	3.3	3.3
C8	権利と責任	かかりのしごとを、さいごまでやりきることができます。	3.6	3.9	3.8	3.8
C9	参加・参画	このがっきゅうをよりよくするために、ともだちときょうりょくすることができます。	3.8	3.7	3.8	3.8

人権感覚質問紙調査（小学校４～６年児童）　令和６年７月実施　　3.5以下

No,	内　容	設　問　内　容	4年	5年	6年	平均
A1	人間の尊厳・価値の尊重	人は、みんな一人一人価値ある存在です。	3.7	3.9	4	3.9
A2	生命尊重	命はかけがえのない大切なものです。	3.9	4	4	3.9
A3	自己尊重の感情	自分はたった一人の大切な存在です。	3.6	3.9	3.7	3.7
A4	共感と連帯感	友達と考えや気持ちを伝え合うことは大切です。	3.8	3.8	4	3.8
A5	公平・公正	身近にある差別について理解しています。	3.4	3.6	3.9	3.6
A6	多様性への尊重・共生	様々な考えをもつ人々がいることを理解しています。	3.6	3.9	4	3.8
A7	コミュニケーション能力	自分の気持ちを友達に分かるように伝えることは大切です。	3.8	3.8	4	3.9
A8	権利と責任	自分の責任や仕事を果たすことは大切です。	3.8	4	4	3.9
A9	参加・参画	よい学級を作るには、進んで友達と関わることが大切です。	3.9	3.8	4	3.9
B1	人間の尊厳・価値の尊重	自分や友達をいつも大切にしようとしています。	3.9	3.9	4	3.9
B2	生命尊重	どんな時でも、自分の命を大切にしようとしています。	3.8	3.9	3.8	3.8
B3	自己尊重の感情	自分の長所も短所も素直に受け止めようとしています。	3.6	3.6	3.9	3.7
B4	共感と連帯感	友達の話をしっかりと聞こうとしています。	3.7	3.9	4	3.8
B5	公平・公正	正しいことを守ろうとしています。	3.7	3.9	3.9	3.8
B6	多様性への尊重・共生	人の外見や考え方・感じ方に違いがあることを受け入れようとしています。	3.8	3.8	4	3.9
B7	コミュニケーション能力	自分の気持ちや考えを友達にわかるように伝えようとしています。	3.7	3.7	3.9	3.8
B8	権利と責任	自分たちで決めたきまりや約束を守ろうとしています。	3.8	3.8	4	3.9
B9	参加・参画	自分の学級や集団をより良いものにしようとしています。	3.8	3.8	3.9	3.9
C1	人間の尊厳・価値の尊重	相手の気持ちを考えることができます。	3.6	3.7	3.9	3.8
C2	生命尊重	人や動物など、全ての生命を大切にすることができます。	3.6	3.8	4	3.8
C3	自己尊重の感情	家族や友達に大切にされている自分に気づくことがあります。	3.5	3.8	3.8	3.7
C4	共感と連帯感	どんなときも友達の気持ちを考えて行動することができます。	3.6	3.7	3.9	3.7
C5	公平・公正	誰とでも同じように、活動に取り組むことができます。	3.6	3.6	3.9	3.7
C6	多様性への尊重・共生	自分と異なる考え方や意見を尊重することができます。	3.5	3.6	3.8	3.6
C7	コミュニケーション能力	自分の考えをわかりやすく友達に伝えることができます。	3.4	3.4	3.8	3.6
C8	権利と責任	自分の役割を責任をもってやり遂げることができます。	3.6	3.7	3.8	3.7
C9	参加・参画	よい学級をつくるために、友達と協力することができます。	3.7	3.9	4	3.9

＜考察＞

４～６年生の結果は全体的に高い評価となっている。特に６年生は全ての項目で高い評価となっており、学年が進むにつれて評価も高くなっている傾向にある。発達段階が上がるにつれて人権への理解が深まり、人権意識が高まってきていると考えられる。

１～３年生の質問項目〔A5「公平･公正」（知識）〕「ひとによってたいどをかえるともだちがいます」では、評価が低くなっているが、質問が曖昧で正しく児童の知識等を反映した結果とは言い難いため、質問内容の検討と改善が必要である。「じぶんのよいところに、きづいています。」〔B3「自己尊重の感情」（価値）〕の質問では、特に「１」「２」の評価が多く、自己肯定感、自己有用感を高める関わりを増やしていく必要があると考えられる。「じぶんのかんがえを、わかりやすくともだちにつたえることができます」〔C7「コミュニケーション能力」（技能）〕の質問では、分かりやすく伝えることは大切だということは分かっていていても、分かりやすく伝えることができていないと考えている児童が多いことが読み取れる。さまざまな教科の学習や活動を通して、表現力やコミュニケーション能力を高める取組が必要だと考えられる。

本校では、毎週木曜日にスマイルタイムという時間を設け、各学級で全校共通のグループエンカウンター計画的に取り組んでいる。毎週火曜日には、学級づくりの時間も設けられており、授業周辺部の取組もさらに充実させながら【公平・公正な態度】【コミュニケーション能力】の向上を図っていきたい。

Ⅲ　成果と課題

○　人権チェックリストの作成・評価・分析により、児童一人一人を大切にした学級づくりや授業づくり、そして、環境づくりがなされているかを確認し、教職員の人権意識を高めることにつながっている。

○　授業研究部では、研究主題に迫るための授業における手立てを検討し、授業研究を通してその検証を進めてきた。教科を限定することなく、各教科において「人権教育」の視点で一人一授業の実践を継続し、事後研究会において手立ての検証等を行うことで、人権教育に対する教職員の理解を深めることができた。

●　児童の人権意識の変容等について、分析的に評価することが難しい側面があり、今後、実践を継続しながら、児童の変容について検証していくことが課題である。

●　教職員の人権チェックリストの活用を工夫し、日常的に人権を意識した学級づくりと授業づくりを推進していくことで、児童の人権意識の高揚につなげていく必要がある。

●　家庭と連携しながら児童の人権意識を育んでいく必要が感じられる。学校の取組を保護者・地域に向けて発信し啓発を図っていきたい。

【令和７年度】

令和７年度は、昨年度の研究の成果と課題から、「公正・公平」と「コミュニケーション能力」の２項目を重点項目として、道徳科の授業を軸に研究を進めた。

（１）年間計画

月日（曜日）	内　容	課題研究	備考
４月１１日（金）	第１回現職教育全体会	○本研究の方向性の確認	
４月２５日（金）	第２回現職教育全体会 及び各部会	○本研究の理論編の共有 ○各部の実践計画の確認	
５月　２日（金）	第３回現職教育全体会	○町学力向上授業研究会について	
５月　９日（金）	第４回現職教育全体会	指導案検討会①	
５月３０日（金）	第５回現職教育全体会	指導案検討会②	
６月１２日（木）	QUテスト①実施		
６月１３日（金）	第６回現職教育全体会	指導案検討③（模擬授業）	
６月２５日（水）	町学力向上授業研究会① 及び講演会	小学校授業研究会 第１回授業研究会（低） 第２回授業研究会（中） 第３回授業研究会（高）	 ２年２組（情） ３年１組（道） ６年１組（道）
６月２７日（金）	第７回現職教育全体会	第４回授業研究会	５年２組（道）
７月１１日（金）	第８回現職教育全体会	第５回授業研究会	１年１組（道）
７月　下旬	ＱＵテスト①について	○結果の分析と考察	
８月２９日（金）	ＱＵ研修会		
９月　５日（金）	第１０回現職教育全体会	第６回授業研究会	そよかぜ（自）
９月１２日（金）	第１１回現職教育全体会	第７回授業研究会	４年１組（算）
９月１９日（金）	第１２回現職教育全体会	第８回授業研究会	５年１組（道）
１０月１７日（金）	第１３回現職教育全体会	第９回授業研究会	あおぞら（自）
１０月３１日（金）	第１４回現職教育全体会	第１０回授業研究会	２年１組（算）
１１月１４日（金）	第１５回現職教育全体会	第１１回授業研究会	３年２組（道）
１１月１９日（水）	町学力向上授業研究会②	中学校授業研究会	
１１月２１日（金）	第１６回現職教育全体会	第１２回授業研究会	４年２組（算）
１１月２７日（木）	ＱＵテスト②実施		
１１月２８日（金）	第１７回現職教育全体会	第１３回授業研究会	６年２組（情）
１月２３日（金）	第１８回現職教育全体会	◎研究物資料作成	
２月１３日（金）	第１９回現職教育全体会	○次年度の研究について	

（２）授業実践

【手立て】（２）展開～一人一人の学びを見取り、支援し、学習解決につなげるために～

イ　発問や問い返しの精選と工夫

「劇場に行ったら誠実じゃないの？」と授業者が批判的な発問で児童の思考をゆさぶり、それぞれの考えを引き出し、伝えたい、聞いてみたいという思いを高めることができた。多くのつぶやきの声を捉え、小グループで話し合わせる場を設けたことで、互いの考えを交流し、多面的な見方で「誠実」について考えを深めることができた。自分の考えに固執せずに、自分とは違った友達の意見にも耳を傾け受け入れる様子から、友達の一人一人を大切に尊重する学級の雰囲気を見取ることができた。

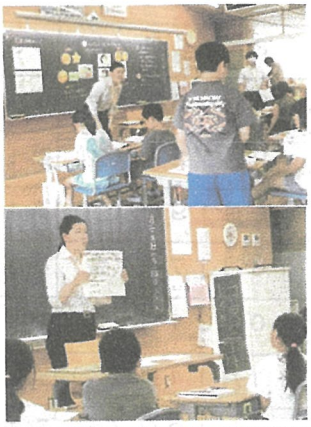
Ｔ：物語は男の子の方へ行って終わりだが、結末として劇場に行く選択をする可能性はなかったかな？
Ｃ：あった。ないとは限らない。
Ｔ：でも劇場に行くことは誠実じゃないのかな。
Ｃ：誠実じゃない。
Ｔ：劇場に行くことは誠実じゃないの？
Ｃ：だって男の子との約束があるのに行くのはちょっと。
Ｃ：男の子との約束は手品師にとっても大事な約束だし。
Ｃ：大劇場にそのまま行っちゃったら、男の子が可愛そう。
Ｃ：待っているかもしれないという気持ちが勝ちそう。
Ｃ：でも大劇場に行ったとして、その前に男の子のところに行っていればちょっと誠実かも。

【手立て】（３）終末～新たな学びにつなげるために～

ア　振り返りの充実と明確化

教材を通して、お日様の心がどんな心で、友達となかよくするためにどう活かせるかを確認したことで、自分を見つめる段階では、学習課題に立ち戻りながら、意図的に補助発問を入れることにより、「みんなと話したり、遊んだりする。」「好き嫌いで分けず、みんな同じように接する。」「仲のいい人だけではなく、ほかの人にも優しくする。」など、好き嫌いや仲のよい人だけ特別扱いをしない、というように、道徳的価値を自分のこととして捉え、考えを深めることができた。

Ｔ：みんなと仲よくするためにはどんな心が大切かな。
Ｃ：みんなで話したり、みんなで遊んだりすること。
Ｔ：仲のいい人だけじゃなくて…？
Ｃ：みんなと！
Ｔ：他にどうかな？
Ｃ：みんなと一緒にする。
Ｔ：みんなと同じくするということかな？
Ｃ：そう。仲のいい人だけでなく、ほかの人にもやさしくするということ！



（２）意識調査

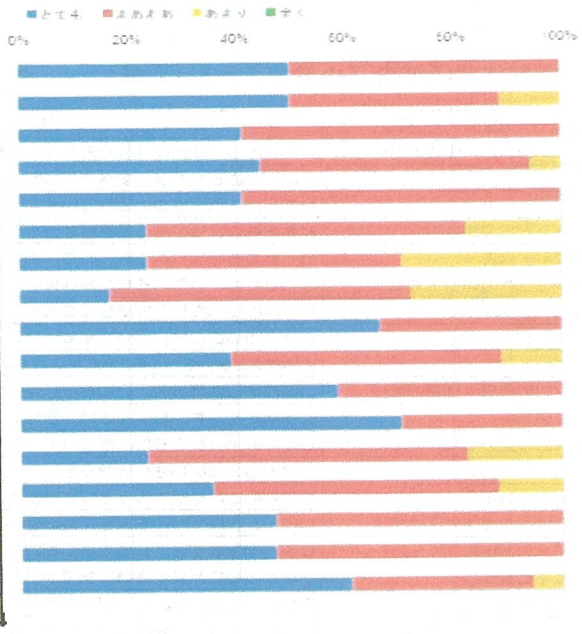
＜教員用・人権感覚チェックリスト結果＞

【人権感覚チェックリスト】　　令７年５月実施

矢祭町立矢祭小学校　　※各項目について４段階評価

（A：とても当てはまる　B：やや当てはまる　C：あまり当てはまらない　D：全く当てはまらない）

評価項目		A	B	C	D	平均値 5月
1	子どもへの関わり方	人数				3.3
①	授業の始めと終わりの時刻を守っているか	9	9	0	0	3.5
②	名前に敬称（さん）をつけて呼んでいるか	9	7	2	0	3.4
③	一人一人の意見に傾聴できているか	7	10	0	0	3.4
④	「ほめる」ことを意識し、肯定的な言葉かけをしているか	8	9	1	0	3.4
⑤	「わからない」と言える安全・安心に学べる学級になっているか（※学びの意欲）	7	10	0	0	3.4
⑥	授業の進め方は分かりやすく、子どもの意欲を高める教材になっているか（※授業スタイル）	4	10	3	0	3.1
⑦	発言する児童に偏りはないか	4	8	5	0	2.9
⑧	一人一人の学習状況に応じた個別指導ができているか	3	10	5	0	2.9
⑨	全校生に進んであいさつや声かけをしているか	12	6	0	0	3.7
⑩	廊下・ランスの子全員に声をかけているか	7	9	2	0	3.3
2	環境面	人数				3.4
①	誤字脱字等がないよう児童に配慮ある掲示をしているか	10	7	0	0	3.6
②	廊下は、不要な物書や掲示がなくきれいに保たれているか	12	5	0	0	3.7
③	教室やワークスペース等の整理整頓が保たれているか	4	10	3	0	3.1
④	視力や体格、友人関係等を考慮した座席になっているか	6	9	2	0	3.2
⑤	保護者には、親子の立場になって連携するよう心がけているか	8	9	0	0	3.5
⑥	保護者には、積極的に子どものよさを伝えているか	8	9	0	0	3.5
⑦	職員間で良好なコミュニケーションが図られ、風通しのよい職場になっている	11	6	1	0	3.6
						3.5以上



＜考察＞

「１　子どもへの関わり方」の項目では、「①　授業のはじめと終わりの時刻を守っているか。」「③　一人一人の意見に傾聴できているか。」「⑤　わからないと言える安全・安心に学べる学級になっているか。」「⑨　全校生に進んであいさつしているか」の項目で、肯定的評価１００％を達成することができた。特に、「③　一人一人の意見に傾聴できているか。」の項目は、昨年度の数値からの向上が見られた。一人一人の発言を大切に受け止める授業づくりの成果とも言える。

その一方で、「⑦　発言する児童に偏りはないか。」「⑧　一人一人の学習状況に応じた個別指導ができているか。」の評価は平均値３を下回ってしまった。「⑦　発言する児童に偏りはないか。」の項目では、活発に発言する児童の発言をもとに授業を展開してしまう傾向が少なからずあると考えられる。より多くの児童の声を生かし学級全体で学びを深める授業づくり求められる。そのためにも、課題意識を高める工夫をするとともに、全員が自分の考えを持つ場や少人数で意見を交流する場などを設け、一人一人が意見を発信できるようにしていく授業づくりが必要であると考える。「⑧　一人一人の学習状況に応じた個別指導ができているか。」の項目では、限られた時間の中で、一人一人の学習状況をしっかりと見取りながら、一単位時間や単元を通して、様々な方法で個別指導を意図的に行うことと、ＩＣＴの効果的な活用が求められる。

「２　環境面」の項目では、「③　教室やワークスペース等の整理整頓が保たれているか」「④　視力や体格、友人関係を考慮した座席になっているか」の項目で、平均値3.5を下回ってしまった。いずれも、教職員の環境づくりや児童一人一人への配慮が十分でない状況が一部にある浮き彫りとなったため、現職教育の研修の中で、この結果を教職員で共有して、一人一人が尊重され心地よい環境の中で学校生活を送ることができるよう、環境面の見直しを図ることができた。その他の項目では肯定的評価１００％を達成することができている。

昨年度と評価項目の一部が変わっているところもあり、昨年度からの変容を把握するのが難しいところもあるが、全体的に評価は高い結果となったと考えられる。毎月の振り返りや先生方一人一人の意識の高まりがうかがえる。

＜児童用・人権感覚質問紙の結果＞

昨年度に引き続き、「知識的側面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」の３項目を、「１　人間の尊厳・価値の尊重」「２　生命尊重」「３　自己尊重の感情」「４　共感と連帯感」「５　公平・校正」「６　多様性への尊重・共生」「７　コミュニケーション能力」「８　権利と責任」「９　参加・参画」の９つに分類し、計27項目でアンケートを行った。

人権感覚質問紙調査（小学校１～3年児童）　令和７年５月実施　　3.5以下

No.	内　容	設　問　内　容	1年	2年	3年	平均
A1	人間の尊厳・価値の尊重	にんげんは、ひとりひとりみんなたいせつです。	3.9	3.9	4	3.9
A2	生命尊重	いのちのあるものは、すべてたいせつです。	4	3.9	4	4
A3	自己尊重の感情	わたしは、たいせつにされています。	3.8	3.7	3.8	3.8
A4	共感と連帯感	ともだちに、じぶんのきもちをつたえることはたいせつです。	3.9	3.8	3.8	3.8
A5	公平・公正	だれとでもおなじように、あそんだり、べんきょうしたりすることはたいせつです。	3.9	3.8	3.9	3.8
A6	多様性への尊重・共生	まわりには、いろいろなかんがえをもつひとがいます。	3.8	3.8	3.9	3.9
A7	コミュニケーション能力	じぶんのきもちをともだちにつたえることはたいせつです。	3.9	3.8	3.9	3.8
A8	権利と責任	かかりのしごとを、さいごまでやりとおすことはたいせつです。	4	3.9	3.8	3.9
A9	参加・参画	よいがっきゅうをつくるためには、ともだちときょうりょくすることがたいせつです。	3.9	3.9	3.8	3.9
B1	人間の尊厳・価値の尊重	じぶんやともだちを、いつもたいせつにしようとしています。	3.9	3.8	3.9	3.9
B2	生命尊重	どんなときでも、じぶんのいのちをたいせつにしようとしています。	3.9	4	3.9	3.9
B3	自己尊重の感情	じぶんのよいところに、きづいています。	3.9	3.2	3.5	3.5
B4	共感と連帯感	ともだちのはなしをしっかりきこうとしています。	3.9	3.8	3.9	3.9
B5	公平・公正	ただしいことをまもろうとしています。	3.8	3.8	3.9	3.8
B6	多様性への尊重・共生	じぶんとちがうかんがえを、たいせつにしようとしています。	4	3.8	3.8	3.9
B7	コミュニケーション能力	じぶんのきもちを、ともだちにわかるようにつたえようとしています。	3.9	3.7	4	3.9
B8	権利と責任	かかりのしごとを、さいごまでやりとおそうとしています。	3.9	3.8	3.9	3.9
B9	参加・参画	このがっきゅうを、よいがっきゅうにしようとしています。	4	3.8	4	3.9
C1	人間の尊厳・価値の尊重	ともだちのきもちをかんがえることができます。	4	3.6	3.9	3.8
C2	生命尊重	ひとやどうぶつなど、すべてのいのちをたいせつにすることができます。	3.9	3.9	3.9	3.9
C3	自己尊重の感情	かぞくにたいせつにされているときづいています。	4	3.7	4	3.9
C4	共感と連帯感	ともだちと、なかよくせいかつすることができます。	3.7	3.7	4	3.8
C5	公平・公正	だれとでもおなじように、あそんだり、べんきょうしたりできます。	3.9	3.8	3.9	3.9
C6	多様性への尊重・共生	ひとりひとりに、ちがいがあることをりかいしています。	3.8	3.7	3.9	3.8
C7	コミュニケーション能力	じぶんのかんがえを、わかりやすくともだちにつたえることができます。	3.8	3.3	3.8	3.6
C8	権利と責任	かかりのしごとを、さいごまでやりきることができます。	3.9	3.9	3.9	3.9
C9	参加・参画	このがっきゅうをよりよくするために、ともだちときょうりょくすることができます。	3.8	3.8	3.9	3.8

人権感覚質問紙調査（小学校４～６年児童）　令和７年５月実施　　3.5以下

No.	内　容	設　問　内　容	4年	5年	6年	平均
A1	人間の尊厳・価値の尊重	人は、みんな一人一人価値ある存在です。	3.5	3.9	4	3.8
A2	生命尊重	命はかけがえのない大切なものです。	3.7	3.9	4	3.9
A3	自己尊重の感情	自分はたった一人の大切な存在です。	3.6	3.9	3.9	3.8
A4	共感と連帯感	友達と考えや気持ちを伝え合うことは大切です。	3.6	3.8	3.9	3.8
A5	公平・公正	身近にある差別について理解しています。	3.3	3.6	3.7	3.5
A6	多様性への尊重・共生	様々な考えをもつ人々がいることを理解しています。	3.5	3.7	3.9	3.7
A7	コミュニケーション能力	自分の気持ちを友達に分かるように伝えることは大切です。	3.4	3.8	3.9	3.7
A8	権利と責任	自分の責任や仕事を果たすことは大切です。	3.5	3.8	3.9	3.7
A9	参加・参画	よい学級を作るには、進んで友達と関わることが大切です。	3.5	3.9	3.9	3.7
B1	人間の尊厳・価値の尊重	自分や友達をいつも大切にしようとしています。	3.6	3.8	4	3.8
B2	生命尊重	どんな時でも、自分の命を大切にしようとしています。	3.6	3.8	3.9	3.8
B3	自己尊重の感情	自分の長所も短所も素直に受け止めようとしています。	3.4	3.7	3.8	3.6
B4	共感と連帯感	友達の話をしっかりと聞こうとしています。	3.5	3.9	3.9	3.8
B5	公平・公正	正しいことを守ろうとしています。	3.5	3.7	3.9	3.7
B6	多様性への尊重・共生	人の外見や考え方・感じ方に違いがあることを受け入れようとしています。	3.5	3.8	3.9	3.7
B7	コミュニケーション能力	自分の気持ちや考えを友達にわかるようにつたえようとしています。	3.5	3.9	3.9	3.7
B8	権利と責任	自分たちで決めたきまりや約束を守ろうとしています。	3.5	3.8	3.9	3.8
B9	参加・参画	自分の学級や集団をより良いものにしようとしています。	3.4	3.8	3.9	3.7
C1	人間の尊厳・価値の尊重	相手の気持ちを考えることができます。	3.6	3.7	3.8	3.7
C2	生命尊重	人や動物など、全ての生命を大切にすることができます。	3.6	3.8	3.9	3.8
C3	自己尊重の感情	家族や友達に大切にされている自分に気づくことがあります。	3.5	3.8	3.8	3.7
C4	共感と連帯感	どんなときも友達の気持ちを考えて行動することができます。	3.4	3.8	3.8	3.7
C5	公平・公正	誰とでも同じように、活動に取り組むことができます。	3.4	3.9	3.8	3.7
C6	多様性への尊重・共生	自分と異なる考え方や意見を尊重することができます。	3.4	3.8	3.7	3.6
C7	コミュニケーション能力	自分の考えをわかりやすく友達に伝えることができます。	3.3	3.6	3.5	3.5
C8	権利と責任	自分の役割を責任をもってやり遂げることができます。	3.3	3.7	3.8	3.6
C9	参加・参画	よい学級をつくるために、友達と協力することができます。	3.5	3.9	3.9	3.8

＜考察＞

どの学年も概ねよい評価を得ることができた。学年が進むにつれて評価が高くなっている。今年度は道徳科に重点を置きながら研究を進めてきた。その他の教科でも一人一人の意見を認めたり、尊重したりしてきたことが、この結果につながったと考えられる。４年生の評価については、３年生までの質問と異なるため、設問理解が十分でなかったことも一部影響していると考えられる。学校全体として共通した課題と考えられる点はないが、学年ごとの課題が見られる。

１年生は質問項目〔A3「自己尊重の感情」（知識）〕「私は大切にされています」では、評価が低くなっている児童が数名いため、家庭との連携を含めて、配慮した関わりが必要である。

２、３年生では、共通して〔A5「公平･公正」（知識）〕の項目で、大きな伸びが見られる。その一方で、〔B3「自己尊重の感情」（価値）〕「じぶんのよいところに、きづいています。」の質問では、複数人が低い評価で回答しており、自己肯定感、自己有用感を高める関わりを意識していく必要があると考えられる。

５、６年生については、概ねよい評価となってはいるが、昨年度から課題として挙がっている「公平・公正」「コミュニケーション能力」の各項目で3.5を下回っているため、場面を捉えながら日常的な指導を継続するとともに、道徳教育やSST（ソーシャルスキルトレーニング）などで重点的に取り組んでいく必要もある。本校では、毎週木曜日にスマイルタイムという時間を設け、各学級で全校共通のグループエンカウンター計画的に取り組んでいる。毎週火曜日には、学級づくりの時間も設けられており、これらの活動をさらに充実させながら【公平・公正な態度】【コミュニケーション能力】の向上を図っていきたい。

Ⅲ　成果と課題

○　昨年度から、人権感覚チェックリストを毎月活用し、教職員の人権意識を高めてきた。普段の授業や環境面でチェックリストの活用により、あたたかい関わりやあたたかい学級づくりが進んだ。hyper-QUテストにおいて学校全体として満足群が85%を超えることができていることも、児童、教職員の人権意識の高まりの表れとも考える。

○　今年度は、人権意識を高めていくために、道徳科を中心に授業研究会を行ってきた。本校の課題でもある「公平･公正」の項目での授業研究では、事前研や事後研等で「公平･公正」の内容項目について全職員で考えを深める機会になった。

○　事後研究会では、今年度からグループでＫＪ法を取り入れた協議を行ってきた。授業の手立てについて、少人数で検討し、それぞれの見方を共有し合い、「自分だったらどうするか」「より深めるためにはどうするか」など主体的な話し合いができた。授業者にも多くが還元される事後研究会を実施することができている。

●　人権感覚チェックリストの内容が昨年度と変わったところもあり、昨年度との比較が難しい部分があるが、今後も精査しながら、継続して調査をしていくことで成果につなげたい。

●　学年が進むにつれて人権意識が高まることを考えると、縦のつながりを増やしていくことで、相互的に人権意識を高めていくことに繋げられると考えられる。そうした視点で行事や縦割り班活動などを見直していくことも大切な視点と考えられる。

●　人権教育の柱となっている道徳教育について、その実践や他教科との連携、生活の中に根ざしていくための継続的な指導や評価等も含めて、今後も研究を進めていくことが大切である。

おわりに

昨年度より研究主題を「自他を愛し、共に幸福を求めること（Well-being）」ができる子どもの育成～認め合い、伝え合い、学び合う活動を通して～」として研究を行ってきた。昨年度は各教科を通じて人権教育の研究を進めてきたが、「公正・公平」「コミュニケーション能力」の項目で課題が見られた。今年度は道徳科を軸に研究を進めてきたが、実践や意識調査からも一部ではあるが研究の成果が表れてきている。今後も人権教育を教育活動の基盤に据え、地域・家庭とともに連携しながら研究を続け、児童の人権意識をさらに高めていきたい。